

講演会 「北大阪のまつりと大阪府内のまつり」

平成 29 年 10 月 14 日 (土)
大阪府教育庁文化財保護課専門員
森 成元 氏



みなさんこんにちは。大阪府教育庁文化財保護課で無形文化財と民俗文化財を担当しています森と申します。

先週から吹田市立博物館で「北大阪のまつり」と題し、実物とパネルの展示をされておりまして、島本町を含みます北大阪のいろいろなおまつりをご紹介します。そのなかで島本町尺代の諏訪神社の「お頭（おとう）」、という行事が紹介されています。北大阪地域は豊能地域と三島地域合わせて7市、3町からなる地域で淀川の北側に沿った古くから開けている地域です。大阪府内で「まつり」と言えば、だんじりまつりや天神祭が一般的です。また、ふとん太鼓・太鼓みこしが担がれる神社のおまつりを思い浮かべられる方も多いと思いますが、いろいろな形があります。今日は「北大阪のまつりと大阪府内のまつり」と題してお話をさせていただきます。

大阪府内の国指定重要無形民俗文化財で特色のある行事をご紹介しますと思います。

まず、四天王寺の聖霊会の舞楽です。聖霊会は聖徳太子の聖霊をまつる法会で四天王寺につくられた石舞台上で舞楽を行います。四天王寺創建にかかわる聖徳太子がお亡くなりになった2月22日にちなんで現在は4月の22日に行われています。奈良時代以来、主に中国、朝鮮半島から伝わった仏教の法要と舞楽・雅楽が現在も行われている非常に貴重なもので国の重要無形民俗文化財となっています。途中中断もありますが1700年続けられているとも言われています。舞楽、雅楽は平安時代に今のかたちになったと言われており、四天王寺の舞楽、奈良の南都の舞楽、京都の宮中にあった楽所の三方楽所の三つが長らく舞楽を伝えてきています。日本全国に広まった獅子舞の原型は、この舞楽にあるということで、仏教であれ神道であれ、獅子は神様もしくは仏様と人間とのあいだを繋ぐ、霊獣という位置づけであることがわかつています。最後に舞われる太平楽という曲を毎年行っているのも四天王寺の特徴です。

次にご紹介するのは、同じく国指定重要無形民俗文化財になっております住吉のお田植です。お田植神事というのはその名の通り田植えをして神様に奉納します。大阪府内では、能勢の御田、大阪市内で杭全神社の御田、住吉大社のお田植の3ヶ所でしかやっていません。住吉大社がなぜお田植と言われるかというと、神殿で実際の田植えをするからです。他では田植えの真似をして行事をやっている所がほとんどです。

住吉大社の祭礼のおりに行われるお田植神事は田植行事です。植女から替植女が苗を受け取り、田植えをされます。八乙女による田舞、風流武者が紅白に分かれて陣鐘・太鼓・ほら貝を打ち鳴らしながら、六尺棒を打ち合う棒打合戦、長柄の傘を開いて持つ音頭取の歌につれ、菅笠をつけた僧形の子供たちが、団扇を打ちながら傘のまわりを踊りまわる住吉踊りなど、実際の田植えをしながら芸能を伴った風流行事が行われるということです。こうやって舞台の中央でいろいろな行事が進ん

でいるうちに田植えが同時に進んでいきます。実際、牛で代掻きをし、手で植えるという事を保存されているだけでも大変なことだと思います。これを住吉大社では毎年やって下さっています。

その他に、堺市南区の桜井神社に上神谷（にわだに）のこおどりというものがあり、もとは雨乞踊として踊られたものです。片蔵の桜井神社の秋祭の中で中踊りと外踊りで構成され、中世の風流（ふりゅう）踊りの系統を引くもので著名なものです。

それから、北大阪地域で一番著名なものが能勢の浄瑠璃です。人形浄瑠璃文楽とは人形を使って義太夫三味線と義太夫節で語って人形を動かして劇をするもので、大阪市中央区の国立文楽劇場で行われている訳ですが、能勢にも浄瑠璃があり、これは素浄瑠璃といい、人形がなくて三味線と義太夫を語る太夫の方のみがやられるというものです。浄瑠璃のトップの人は「おやじ」と言うんですが、その人が後継者を養成して、門弟を集めて教えて広がる。この浄瑠璃を語る人は200人もいます。国立文楽劇場の技芸員の太夫さんだって50人くらいもおられませんから、200人も語る人がいると言うのは希有なことです。この浄瑠璃は杉村量輔の門人、竹本文太夫派と、竹本井筒太夫派、竹本中美太夫派の三派があり、さらに平成13年、200年ぶりに能勢町の東地区に竹本東寿太夫派が旗揚げし4派体制となってますますさかんとなりました。能勢町は、浄瑠璃シアターという会館も造って浄瑠璃の振興に努めてられるというのは、非常に特筆すべき事だと思います。

次に、「特色のあるおまつり」としてご紹介したいと思います。

1月の第2日曜日に島本町の尺代の諏訪神社で「お頭祭（おとうさい）」が行われます。神社境内にて弓矢で的を打ち、藁で作った綱で綱引きをして、豊作の祈願を行うものです。午前8時半に尺代の公会堂に集まり、綱と的を作ります。綱の長さは9m、太さ40cmほどです。午後2時前に綱と的などを神社まで上げます。祭典が行われたあと、旧当家2名と、新当家2名が、10本ずつ矢を射り三回繰り返します。次に綱を東西に分けて引き合い、2回勝負をします。勝った方の組が豊作になると言われています。これは大沢の早尾神社でも行われているとのことですが、島本町では、こういった貴重な行事が行われているのでこれからも続けていっていただきたいと思います。

あと、この北大阪での特徴的な行事で、「台額」というのがあります。豊中市の桜塚の原田神社と熊野の八坂神社で「台額」という山車が出ます。大阪市西成区の生根神社にも「玉出のだいがく」という山車があり、現存するのはただ一基ということで、大阪府の有形民俗文化財に指定されています。このお祭りは天神祭と同じ日に行われておりまして、マスコミでほとんど報道されていないんです。南大阪地域では非常に規模の大きなおまつりです。

熊野の八坂神社の台額は4つの地区で4基あり、10月の祭礼の時に宵宮で練られます。宵宮には夜、各地区に巡行した後境内に順次担ぎ込まれます。神の化身とされる獅子とともに獅子追い神事に加わり、境内を練ります。この台額は、高さが5メートル、で500キロあり、4基のうち2基が江戸時代のもので、最古のものは西地区の天保14年、1843年製作で、この頃から祭りに加わったと言われています。

池田の神田の八坂神社には、この台額とよく似た額灯があります。また、北大阪の豊中、摂津の藤森神社でもお祭りの時に非常に大きな提灯が宮入するなど、特徴のあるお祭りが多いため、是非近くで行われているお祭りをご覧頂けると面白いと思います。